

『2024 年お正月特講、春日山実顕地で開催 共に考え、探り、自分の中で何かが変わった 1 週間』

年末年始にかけての「2024 年お正月特講」(12 月 29 日～1 月 5 日)は、三重県の春日山実顕地を会場に、参加者 8 名と係団 5 名の 13 名で開催しました。寝食を共にしての 1 週間の生活の中で、参加者それぞれが出し合う『考えや今思っていること』を聞き、自分に引き付け、自分に問い、共に探ることで、新しい気づきがあったようです。その感想文が届いたので紹介します。

兵庫県から参加の女性 MT さん (24 歳)

今回、私が特講に参加しようと思ったきっかけは、中部関西の若者達が集った若者研で研鑽会を経験したことでした。自分の思ったことを出し、相手の話を聞く、何度も自分に問いかけて考える、その繰り返しが楽しく、研鑽が好きだと感じ特講への参加を決意しました。

特講が始まり毎日研鑽を続けていく中で、思考の限界に達して苦しいと感じることもありましたが、他の特講生の話を聞くことや、諦めずにさらに掘り下げることで新しい自分が見えてくる感覚が心地よく、改めて研鑽が好きだと再確認しました。同時に、今までいかに執着やキメツケで自分を縛り付けていたかを実感しました。こうであるべきと思い込み、日々を自分自身で生きづらくしていたのだと思います。

特講が終わった今は、あらゆる執着を取っ払いフラットな状態で「自分がどうしたいか」を大事にして考えていきたいです。今回、たくさんのお出会いや自分と向き合う時間を過ごせた特講に感謝し、これからの人生を明るく元気に、笑顔忘れずに楽しくやっていきたいと思っています。

栃木県から参加の男性 MH さん (26 歳)

たくさん笑って泣いてでしたが、ほんとに楽しい 1 週間でした。

今まで自分の思ったこと考えてることを、こんなに深く考えていなくて、少し世界が広がったような気がしています。

メンバーも 20 代から 60 代までバラバラ、職業も公務員、海外飛び回ってる人、職人、無職などいろいろで、それぞれの価値観があり研鑽している中でもいろいろな話ができたのが良かったなと思います。



自分の中で何かが大きく変わった感じはしてないですが、自分の中がスッキリ、クリアになって軽く考えられそうな気がしています。テーマの中で分からなかったものもあったけど、「ゴールインスタート」という言葉があったように、これから失敗も成功も研鑽して、明るく楽しく幸せに生きていきたいと思っています。

兵庫県から参加の女性 ST さん (28 歳)

私の両親が特講に参加していて、人生で立ち止まって考えたい時に特講に行くといいよと言われて育ちました。今まではそのタイミングがなく、特講に興味がありませんでしたが、今回退職を機に自分と向き合う一週間を過ごしてみようと思い参加しました。

楽園村っ子だったので、春日山での生活は懐かしく、楽しく健康的に過ごすことができました。

前職では自分の考えを言うことができず苦しい思いをしていましたが、特講では自分の思いを出し切る事を目標に研鑽に参加しました。テーマごとに沢山考え、自分の言葉で言えたこと、他の人の考えを知れたこと、お互いの意見を押し付けるのではなく、そういう考えもあるんだね〜と、受け入れ

■ 1 月 5 日・特講交流会 ■



今回は 8 名の特講でしたが、心温まる話がいっぱいありました。初めてヤマギシに触れる人が 5 人と楽園村や村で育った若者が 3 名。研鑽会が始まると、初めての人たちは沈黙が苦手で何か喋らないと発言してたそうです。若者 3 人は沈黙の間、自分はどう思うかと考えているので、ぜんぜん平気。何か喋らないと、と周りばかり見てたけど「自分はどうか？と考えるんだなと、その姿を見て気づきました」と言う話が新鮮でした。

(SK)

られるようになったことはとても良かったと思います。なにより特講を経験した人たちの周りで自由に育ってきたこと、これからも続くことに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。これからも自己研鑽をしたり、若者研に参加したりして、自分と向き合う時間を大切にしていきたいと思います。

熊本県から参加の女性 AS さん (31 歳)

特講を受けて、自分の視野、考え方が広がりました。たくさんの方の話を学びましたが、大きく 3 つのことについて気づくことができました。

まずは、零位に立って研鑽する大切さを実感したことです。様々な概念に縛られずに物事を勝手に決めつけないこと、本当にそうなのか繰り返し自分に問うことを 1 週間かけて調べぬきました。何度も質問されて、苦しくなることもありましたが、それでも繰り返し自分と向き合ったことで、様々な視点を持って物事を捉えることができるようになりました。

次に、自分の名前である愛和の由来は食事会場の愛和館だと知ったことです。仲間と過ごしているときは、「名前が同じで不思議だな」くらいの感覚でしたが、両親からの手紙で愛和館の素敵な雰囲気から名付けたと知り、驚いたと同時にとても嬉しかったです。なぜなら、私も愛和館にいる方々の笑顔や穏やかな話し方に惹かれていて、その気持ちは両親と同じだったと気付くことができましたからです。改めて、自分の名前を大切にしていきたいです。

最後は、出会いに感謝したいと思ったことです。特講のメンバー、係の方々、私たちを受け入れてくださった村の人たち、この出会いはこれからの私の人生に大きく影響を与えたと思っています。メンバー 8 人だったからこそ、色々な話をすることができ、係の方々が優しくったから苦しいときも乗り越えることができました。何より、村の人たちの心の温かさ

に触れたことで自分の心を磨くことができました。本当にこの出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。

今、日常生活に戻り、あの 1 週間で学んだことを日々にかかしています。研鑽を重ねることで、腹を立てることが減りました。特講に行くことができて良かったです。

兵庫県から参加の女性 EN さん (47 歳)

私は『内観を続ける 1 週間』としか聞いていない状態で特講に参加しました。そのため、特講中は良くも悪くも感情が大きく揺さぶられましたが、それを経験しに来たのだとも感じたので、思い込みや偏見を手放して、自分の感情を俯瞰して見ながら自分自身の真ん中（零位）を見つける作業を続けた 1 週間でした。

研鑽は自分の中の深い部分を見つめ、新しい視点や価値観を見つけ出すのに大変役立つ素晴らしいものだと感じました。この手法を多くの人が知ることによって、異なる意見を戦わせるのではなく、お互いに意見を出しあって、そこから共通点を見出していく平和な社会の実現が可能になると考えています。

一方で、特講全体の流れの中に『誘導』の要素が少なからず含まれていたことには違和感を覚えました。特講が始まった昭和初期は、今から考えると驚くほど強引なやり方で参加者を募り、特講を通じて村への参画に繋げていたということを知りました。しかし、今回特講に関わってくださった方々のお話から「現在は村を無理に拡大しようとはしていない」という印象を受け、昔とは考え方もやり方も大きく変化していると感じました。昔と今の状況がそれほど大きく変化しているのであれば、特講も現状に対して零位に立ったプログラムにすることで、より多くの人が気軽に特講を受けるようになり、素晴らしい研鑽の文化が広がるのではと感じました。

特講を終えたとき、『みんなちがって、みんないい』という金子みすゞさんの詩が浮かんできました。特講やヤマギシ

■特講の係をやってみて■

係は特講生が考え自分と向き合う場づくり

春日山実頭地 山崎彰久

今回 8 名の特講生と 5 名の係でスタートした正月特講でしたが、今終わって思うことはみんな病気など無く無事に終わってよかったということです。

係をする時に意識する事は、考えるのは特講生で、それを邪魔しないという事なのですが、特講の中でテーマ 1 つ



1 つを特講生達が一生懸命考え、向き合っていたように感じました。なので自己満足になるかもしれないけれど、その部分は少しはやれたかなと思っています。

係をやりながら、僕も本当にどうなんだろうと考えるようになります。こう思うけどどうなんだろうと、検討してやっていけたらなと思います。

実頭地のみんなに温かく見守られて

豊里実頭地 横田陵子

今回のお正月特講の世話係に入らせてもらいました。改めて特講の素晴らしさを感じました。学園や楽園村で子供の頃から実頭地に触れていた人も、ヤマギシのことはほとんど知らずに参加した人も、同じテーマで考え、意見を出し合える。そしてまた自分に問いかけながら、次第にみんなと溶け合っていくのがすごいなと思いました。



私は豊里なので春日山実頭地の生活が新鮮でした。最後の夕食を特講生だけの会食にするか、村人と一緒に会食をするか、世話係が決めるということになりました。村人と一緒に会食をすると決まったのは会食の 3 日前のことでした。そして当日、愛和館に行くと、たこ焼き、焼きそば、ピザ、ケーキなどいっぱい、お祭りのよう。聞くと仲良し班で考えて用意してくれたそうです。特講生のことを思って、たった 3 日間でもここまでできるなんて！それに楽しそう。村訪問で会った人や、他の村人ともたくさん話して交流することができました。実頭地の懐の深さを感じ温かい気持ちになりました。

ムの実顕地が大好きな人たちも、抵抗や反発をする人たちも、結局はみんな一つなんだと心の底から思えたこと、そこに私が特講に参加させてもらった大きな意味があったような気がしています。

熊本県から参加の男性 KY さん (54 歳)

職場の人間関係や子供との関わり方に思い悩み、今の自分を少しでも変えたいとの思いで特講に参加しました。

子供の頃から人目を気にして人からどう思われるかを考えすぎるあまり、人前で話をするのが得意ではありませんでした。研鑽が始まって直ぐはなかなか自分の思いを口に出せずに、発言では声が小さく聞き取り辛かったようです。同じテーマを何度も問われ続ける研鑽は新鮮ですが、苦しい時間帯も多くありました。それでも他の人の意見を聞きながら、繰り返し自問自答している内に、これまでの当たり前を一応棚上げし、違う角度から考えることが出来るようになったように思います。

その頃、世話係の方からは「声が大きくなって来ましたね」と言われ、確かに自分の中で何かが変わり始めたのを感じました。

また、研鑽していく中で、家族がどれだけ大切なものであるかに気付けたことも大きな収穫です。



仕事や境遇の異なる 8 人での生活はとても刺激的で、毎日会話に花が咲きました。夜遅くまでの研鑽と楽しい会話で頭が興奮し、毎晩なかなか寝付けませんでした。毎日の美味しい食事と檜風呂の心安らぐひと時や、係やヤマギシの村の方々の優しさにも触れ、一生思い出に残る 1 週間となりました。一緒に参加した特講生やスタッフ、お世話になった皆さん、本当に有難うございました。

今週からは仕事と家族との生活が再開しましたが、特講前より腹の立たない自分がいて、自分の考えを口に出せていません。何かいい感じです。これからも研鑽を重ね、より豊かな人生を家族と一緒に送りたいと思っています。

神奈川県から参加の女性 AS さん (54 歳)

時計、スマホ、本、筆記用具などをお預けして、非日常に近い環境の中で、1 週間を過ごしました。

始めは、沈黙に耐えられず、何か喋ろうという気持ちがあったのですが、次第に考える事に没頭しだし、沈黙は気にならなくなっていました。

その中で、私は思い出しました。幼稚園の仕事を辞めた後、自分にベクトルを向けて見て行こう！と思っていた事に。そして、それが放課後キッズクラブの仕事や日々の生活をしていくうちに埋もれてしまって、出来てなかった事に気づかされました。自分を 1 番、大事にしなきゃいけなかったのに、そこをおざなりにしていた自分に気づいて涙が出ました。この事に気づいたのは、合宿が終わる前日。それに気づけた事は、私の中でとても大きかったです。

また、皆さんと研鑽し合う中で、違う角度から見る見方に気づかされたり、他の方の発言に「自分もそう思ってた」事に気づいたりもしました。

研鑽という言葉はあまり耳慣れていなかったけれど、この

非日常の環境に 1 週間、身を置けた事で、今、生活に戻っても、ふと気づくと、自分を研鑽している自分がいます。

この合宿に参加できて善かったです。合宿で一緒だった皆さん、ありがとう。そして、私達の合宿をサポートしてくださった多くの皆さま、ありがとうございました。

熊本県から参加の女性 YM さん (64 歳)

私が特講に参加しようと思ったきっかけは、私の娘と息子でした。

娘が 1 年前の特講に、息子が昨年夏の特講にそれぞれ参加し、帰宅後に生活面が大きく変化し、2 人の言動や精神面に成長を感じ、更には食事がとても美味しかったとの感想を聞き、私も特講に是非参加したいと思うようになりました。

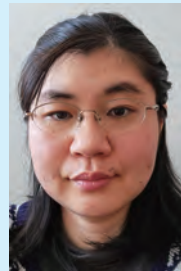
実際に参加してみると、8 名と少人数ながら、20 代から 60 代と年齢層も幅広く、研鑽のテーマについて様々な意見や考えが出され、休憩時間も皆で研鑽するのが楽しく、見識が広まる思いがしました。同じテーマを何度も繰り返し問われる時は、正直苦しかったのですが、私が一番心に残った研鑽は、絵図研鑽でした。絵を見たすぐは、天国と地獄かなと思いましたが、研鑽していくうちに、現実世界のことだと確信しました。人間の欲望や執着を手放して零位の身軽さに立つと、幸福な世界に自分が行けると感じました。本当は自分はどうしたいのかを問い続けた七泊八日で、貴重な体験でした。特講を開催し、お世話をして下さった方々、送り出し迎えて下さった方々、そして家族に心から感謝しています。

■熊本での特講生受け入れ研に参加して■

私もゴールインスタートで進んでいきたい

熊本県 KT

今年のお正月特別講習研鑽会。1 月 8 日にお迎え研鑽会を五嶋英美さんと皆さんが開催してくださり、私も参加しました。



熊本からは私の母の宮崎ゆきと山本さん、坂本さんが参加され皆さん嬉しそうでした。特講生の方々は特講のことを色々話され、係から出されたテーマに向きあい、考えては答えたそうです。研鑽会中はずっと答えを出した方がいいと思って答え続けていたけれど、研鑽会の経験がある特講生の方が、静寂の間も考えているから大事だと話されたということが印象的でした。

私の母は、私と弟の博が五嶋英美さん、横山公子さんの紹介で特講へ行き、興味があったので行きましたが、山本さんと坂本さんは色々悩みなどがあり、縁あって特講に参加したそうです。私個人的には、坂本愛和さんの名前が実顕地の愛和館から名付けていると特講最終日に届いた両親からの手紙で知ったという話は驚きました。素敵な名前です。

特講はゴールではなくゴールインスタート、私も今回の特講生の方々とともにゴールインスタートでどんどん進んでいきたいです。お迎え研鑽会を開催してくださり、五嶋英美さん、皆さんありがとうございます。私も楽しかったです。

■私から貴方へ・特講をプレゼント■

特講に参加した娘(愛和)に感謝です 熊本県 TS

今回、娘を特講に送り出せて心から良かったと感じています。

昨年9月に入籍したばかりの娘の新生活に亀裂がおこり、悩む娘には自分に向き合って欲しいと願った時に、私の脳裏には特講しかないと思いました。どんなに素晴らしい人の講演を聞いても、その時しか残らないし、自分ととことん向き合うには特講しかない！

私は30年ほど前に特講を受け、日常で起こる様々な出来事に湧いてくる感情に、向き合う必要性を感じることができるようになったのは、やはり特講のおかげです。実は娘の名前の愛和という由来は愛和館からいただきました。特講で毎日食事をいただいたあのなんとも言えない和やかな雰囲気、みんなが自然と笑顔になる場所。みんなに愛され、そして繋がって行って欲しい和。特講受講済みの夫との願いは同じでした。娘の名前の本当の由来については特講に行ってから気づいて欲しいと31年間願い続け、やっと念願が叶いました。

そして帰って来てからの娘の止まらない話を聴くこともでき、名前のごとくの人生を歩んで欲しいと願っています。



何より「ゴールインスタート研(特講生受け入れ研)」に参加できた私たち夫婦もまさに、これからがスタートだと再確認できた事に感謝です。

特講に友人2人を送り出してみても 徳島県 MO

今回の特講には西本江里子さん、佐々木明子さんのお2人を送ることが出来、一緒に研鑽する仲間が増えてとても嬉しく思っています。

最初のきっかけは夏の特講に娘の鈴が参加したことで、「腹の立たない人になる合宿に行ってるんだよ」と話したら「何それ!? めっちゃ気になる!」と興味を持ってくれたことでした。

あえてヤマギシのことは説明せずに、「行ったらわかるよ」とめっちゃくちゃ軽く送り出しました。そんな説明せずに行ってくれたのも嬉しかったのですが、日頃から私の生き方や言動を見て、私の言う事だからと信頼して行ってくれた事が本当に嬉しかったです。

まだ帰ってきた2人とちゃんと話していないので、何をどう感じて、受け取ってきたのか、聞くのが楽しみです。

この2人が行った事で、更に私の周りの人たちが「何それ?」って強く関心を持ってくれることと思いますので、これから続々と送りだせるなど、ワクワクしています。



会員研鑽学校(9月10日~24日))に参加して

自分の固定した考えから解放された新鮮な感覚を体験 愛知県 MK (64歳・女性)

研鑽学校は30年ぶり2回目の参加です。60代になって仕事も手放し、これから何ができるのか、どう生きるのかを考えたいと思っていました。漠然と研鑽学校にも行きたいと思っていた時に、開催予定を知りすぐに参加を決めました。

参加者は年代も様々で、日本語が十分に話せない人もいました。自己主張が強かったり、控えめだったり、話すことが得意な人もいれば、なかなか言葉に出せない人もいるように感じました。

研鑽学校は、研鑽と実学(作業)があることで気づきが深まります。一番印象に残っている場面は、職場を決める実学です。1回目(テーマは忘れましたが)は、なんとなく言った者勝ち・早い者勝ちのような雰囲気でした。2回目は、テーマ『あなたの考え、私の考え、それを全部尊重する』を意識しながら、時間をかけて決めていましたが、あまり発言していない人の話(考え)を聴いたところで、「白紙にしよう」という意見が出ました。8割くらい決まっていたホワイトボードに書かれた名前を消して考え直し、みんなが納得できる配置になりました。数日後に、最終日の食事の席決めを参加者だけで考えるように係の人から言われ、同じような方法で決めようとしたのですがなかなか決まりませんでした。夜、もう一度みんなで集まって研鑽し、最終的に「くじ引き」で決めることになりました。



考えを白紙に戻したりくじ引きという選択肢は、私には新鮮で固定した考えから解放された気がしました。また、相手が言った言葉だけでなく、言えない人の考えにも耳を傾けることができたと思いました。日常の中でも、黙って私の希望に合わせてくれる人のことが思い浮かびました。これからは相手の気持ちも尊重して、研鑽する姿勢でやっていきたいと思っています。

参加者15人と世話係3人が一体になり、泣いたり笑ったり、苦しい時もあったけど愉快で楽しく面白い2週間でした。参加したみなさま、温かく見守りお世話してくださった村の方々、実顕地という場、本当にありがとうございました。

8月の特講を受けて帰ってきた夫に勧められて参加

三重県 MN (49歳・女性)

研鑽学校に参加してみて特講の時より参加している皆の心の開きようがすごく早く、わりとすぐに皆が本音を出しあっ

ているように思いました。テーマを色々な角度、視点で考え、作業の時も頭におきながら作業して研鑽会を出し合う2週間でした。

肉牛と一緒に作業した人に「気を遣おうと思わなくていいですから」と言われ、何を言っているのかわからず少しモヤモヤしてもう一度同じ事を言われ「気を遣おうと思ってるわけじゃないです」と言ったら「普段の生活で身につけているからね。1人でやってるんじゃないかって一緒にやってるんですからね」と言われ、自分の奥にあるものにふれ涙が流れてきて、出発研でもその話をして涙が溢れてきました。その時に「出来てない事を責めるのではなく、今まではこうだっただけ！なんだよ」って言ってもらって心が軽くなったような気がしました。養豚へ行った時はオッパイを吸っている子豚がかわいくて、自分が出産した頃を思い出したり、分娩舎で産まれる瞬間に立ち会えて貴重な体験もできました。

マンツーマンでは涵養日の人とペアで体幹トレーニングと温泉に連れて行ってもらい、夜は女子会（研鑽会）でたくさん話を聞いてもらいました。作業中は研鑽テーマと繋がっているかわからなかった事も研鑽会の場になると、その時の場面で繋がってるのが見えてきたり、頭で理解するのではなく自分の感覚として入ってくるものがあって面白かったです。私の中でこうでなければならぬとか、人に迷惑かけてはいけないとか、そんな部分が軽くなって一緒に過ごした仲間とは家族のように本音で言い合い、心が軽く頑張らずに過ごしている自分を感じました。特講の時はちょうどコロナの真っ最中で個室だったので、5人部屋なのがすごく楽しくてお腹が痛い程笑ったり、御飯も愛和館で食べるのも村人との交流も楽しかったです。

一志実顕地の鶏舎の鶏移動に行った時のテーマが〈目の前の人を自分と見る〉最初は鶏の足を持つのを恐々やっていたけれど、自分が鶏の立場だったらしっかり掴んで手早く移動させてほしいと思って作業したら、暴れることなくスムーズに出来るようになって、黙々とやっていたら自分が鶏になったような気がして『たまご産めそう』と思えた不思議な体験もしました。

今回の研鑽学校にもともと参加する予定ではなかったけど、

8月の特講から帰ってきた夫に「行ってきたら？」と言われ考えはじめ、予定も全て変更し仕事も休みを出し締切ギリギリで私の気持ちが行く！に変わって、2週間娘をどうするか地域の人達に相談し考えてもらい、私が居ない間、快く支えてくれる人達がまわりにおいて1人で子育てやってるんじゃないな！と思えたし、娘がその間たくさんの人と関わることで成長できる機会になったと思います。



「一体ってこんな感じかな」と実感

埼玉県 TY (23歳・男性)

今回の研学は豊里で1ヶ月実習生をしてからの参加でした。実習生と研学とで自分の中で何か変化があるかな、と、やってみて、考え方の変化というより気持ち的に明るくなった気がします。考え込んでいた事もどうにかなる気がしてきたみたいな感じです。

研学メンバーはみんな個性的で楽しく、村の人でも温かくて本当に良かったです。研鑽中では深くさぐっていくので大変なところもありました。でも、これかなというのが自分の中で出ると、点と点が繋がった感じがしてすっきりします。研鑽を2週間じっくりやると自分の建前的な考えが段々と取れて、自分の本心に向き合いながら考え問う（それは意外とキツいのですが）それが日に日に慣れてくると素直に考えられるようになりました。自分に素直になると個としての自分ではなく、みんなの輪に溶け込む感じがすごく楽です。

今回は「一体」をやって強く感じました。最初は「一体」ってなんだろうと思いましたが、実学等でみんなと協力していく中で実感としてつかめた気がしました。みんな含めて一体。一人でぐっと考えるというよりみんなで考えていると、身軽で気楽に感じます。どんなときも一人でやってない感じ。今思うと常に「一体」でした。

各地の活動

研鑽会合宿 in 春日山実顕地

11月3日～5日の2泊3日、春日山実顕地での研鑽会合宿に参加した人達から、「参加しての感想と帰っての心境」が届きました。



●石川県・SMさん（男性）

よく喋ったなあ！ 思っている事を出す、聞いてもらう、そして聴く。自分の出した言葉がエコーとして頭の中に入ってくる。自分が何をやりたいのかなあ。出す事から始まるのだなあ。楽しかった合宿研でした。

●愛知県・SIさん（女性）

「軽く出す」で今回の合宿をやろうと参加し、研鑽会で「心に湧いてきたものを出す、湧いてきたものを出す」をやって、研鑽会の際は心の動きがよくわかりました。



帰ってきて娘たちと話していて、そこまで心が動いていない感じがしています。自分の心の動きを日常はどうなっているか、それを感じて過ごしてみます。

●愛媛県・SKさん（女性）

合宿から帰って、今まで主人の話が中々聞けなかったのが、穏やかに聞ける自分があります。

帰って来て、先ず娘に手紙を書きました。「会ったらいいのでは？」とも思ったけど、主人と相談して、まずは手紙でとしました。

由喜恵ちゃんの話が頭にあり、ガンのとき、旦那さんが「生きていてほしい」と言った身近な人の思い、大事にしたいなあと、主人の意見を大事にしました。

娘宅のポストに入れてきました。今まで何もできなかった私ですが、一歩踏み出してみました。

●次回の春日山企画「2泊3日の研鑽会」

- ・日時：2月23日（金）14時～25日（日）12時まで
- ・場所：春日山実顕地
- ・テーマ「僕達はどう生きるか」
- ・参加対象：40代から70代の男女（子預かりなし）
- ・参加費：5,550円 ・宿泊：春日山交流館
- ・今回は作業着長靴持参で
- ・参加申込み先は、春日山村人窓口
fax: 0595-45-4870 email: kasugayama@yamagishi.or.jp

秋の「集中研」in 岡部実顕地

11月24日～26日、岡部実顕地で開催した「集中研」に参加した人達の感想です。

●神奈川県・YWさん（女性）

何やっても楽しく遠慮気兼ねする前に、言うだけで事がなっていく。ベッド替りのお布団3枚で「もう一枚足して欲しい」、即座に一枚お布団が足され、我が家と思ってゆっくり温かい

目覚めの朝が嬉しい。

人並みに動けない私が、夫の後押しもあり、行ってみたく、年齢、身体状況も関係ない、何でもやってみたく私の生き方考えたい、と参加してみても、予想外の連続ばかりでした。大きな樽での味噌作り、玉葱定植で即座に「無理！」が出てくる私から、やりたい気持ちがみんな



と共にやれていく愉しさは格別。嬉しい2泊3日でした。

この年齢になると思いがけない事が次々に出てきますが、その時の事実「〇」から始まる私の人生、冒険物語スタートです。

●埼玉県・NYさん（女性）

みなさん、無事帰宅したとの事。お疲れ様でした。私も無事帰宅し、娘の誕生日会に取りかかろうと思ってましたが、息子達が、準備を進めてくれて、助かりました。食べる時、狭いこたつに、大人6人が座ってて、満席状態。私の席が無かったのですが、私が「お父さんの隣りに座ろう！」って言ったら、主人は狭いのなんのとブーブー言ってましたが、なんやかんや席を開けてくれました。

3日前の私なら、主人の言葉にイライラって、なってましたが…。今夜は、席を開けてくれた事が嬉しく思えました。「世界は自分の中にある」との三角さんの言葉をしみじみ実感しました。自分の居心地の良い家になる様に、先ずは全部「〇」から始めてみたいと思います。

年末、岡部実顕地でみんな寄って「お餅つき」

年の瀬迫った12/30、若者から声が上がリ、岡部実顕地で「わくわく仲良く お餅つき」を、小さい子からみんなで楽しみました。

●ZOOMで準備研、当日も参加者みんなで作くりあって

千葉県 MK (27歳・女性)

毎月開催している若者研の中で「岡部で年末にお餅つきをやりたい！」という声が出て、そこから今回のお餅つきの企画がスタートしました。最初は少人数のZOOM準備研から始めて、当日は40人弱が集まる、大きな企画になりました。

そんな大人数の企画ではありましたが、参加したメンバーがひとりひとり少しずつ何かを担いあって、皆んなで作くりあったお餅つきになったと思います。

私のテーマとして「一人で抱えないでみんなの中に出す」ということを意識してやりました。一人で考えこまずに、みんなの中にすぐに出すと、すごく軽い気持ちで考えられたなと思います。

参加した子の中には、私が楽園村のスタッフだった時に、楽園村っ子だった子達もいて、こうやって一緒に企画を盛り上げられて、すごく楽しかったです！大きくなったその子達をみて、月日の流れは早いなぁ（笑）と感じましたが、この先も一緒にまた色んなことができたかなと思います。

毎月第2土曜日の夜に、町田の東京案内所とZOOMを合わせて若者研をやっています。1ヶ月やってみて思ったことや、

仕事のことで進路のことなど、色んなことを皆んなで出し合っています。

こうやって沢山の若人達と、今回のような企画や研鑽会を一緒に作っていたら嬉しいです！ぜひ、一緒にやりましょう！



●関東の年末お餅つきに参加して

京都府 SK (22歳・女性)

岡部実顕地での集まりに参加するのは、今回が初めてでした。人づてやけんさん紙などで、関東で若者が集まって、たくさん企画をつくっていく様子は聞いていたので、いつか参加したいなとは前から思っていました。スケジュールや距離の問題でなかなか関東までは行けずにいました。

今回の案内を聞いたとき、知らない土地で、参加者も半数以上が初対面で、少し不安な気持ちがありましたが、関西でのたった数時間の集まりにもはるばる遠くから会いに来てくれる友達の存在や、学生期間も残りわずかで、集まるときにはやっぱり人に会いたいなという思いから、参加を決めました。



いざ行ってみると、初めて来たはずの場所なのに、なぜか懐かしさすら感じるほど、温かく、自然に輪の中に入れてもらっていました。前日準備も、お餅つき当日も、



研鑽会や、掃除、遊びの時間も、それぞれ自然に寄りあって、助けあって、みんなで作っていく感じが、柔らかくて温かくて、とても居心地がよかったです。楽しい年末を過ごすことができました。

次は関西のメンバーももっと巻き込んで、また岡部の集まりに参加できたらいいなと思いました。そして、確かに物理的な距離は遠いけれど、オンラインでいくらでも繋がる時代なので、関東の若者も関西の若者も一緒に寄りあって、また集える場をつくるための企画を考えていきたいです。

ひろば



合宿研は特講と同じゴールインスタート

北海道釧路市 TA & SA (夫妻)

9/16 (土) ~ 9/18 (月) の2泊3日、参加者9名で別海実顕地で合宿研をしました。

広大な牧草地と澄み渡った秋空のもと、自動化されたロボット牛舎の参観やインゲン豆の枝撤去作業を行いました。

研鑽会は「今どうする、ワタシ」実学は「思いを声に出す」というテーマで行いました。

それらを通して気づいたのは、それぞれがいろんな思いを抱えているけれど、それを声に出して言わないとモヤモヤするということです。モヤモヤとは何かを探りはっきりさせることで、本来のやりたいことに気づき、世界が広がり、自分のことも愛しくなります。

なかなか声に出せなかったことを、声に出すだけでもすっきりしますが、さらに「今どうする、ワタシ」と自分に問いかけてやることを決めると、よりすっきりします。あとは「やるだけ!」と。

結局、迷っている間はモヤモヤは消えないと思いました。「決めて、やってみて、また考える」まさにヤマギシの実行研鑽で、



合宿研は特講と同じゴールインスタートでした。

ヤマギシの村人には温かく迎えてもらい、居心地の良い場と美味しい食事(ソフトクリームのデザート付き)、帰宅後は早々に合宿研のアルバム写真を送ってもらいました。おかげさまで笑顔あふれる楽しい合宿研となり、感謝しています。

毎日が「仲良し」の練習で楽しい日々

宮崎県 YU (女性)

先日、我がクラシックギタークラブの「20周年定期演奏会」を素晴らしい会場を得て開催しました。

22年前に村を出てこの地に来た時、一番やりたい事を生活の真ん中に置

こうと決めました。主人は遅まきながらクラシックギターを本格的に習い始め、私も水彩画を描き始めました。

生活のための仕事は色々やりましたよ。村で培った?なんでもやってみる柔軟性と研鑽で楽しんでやりましたね。そのうち主人は教室をやってみたらと勧められ、仕事の合間にギター教室も始めました。たった一人の生徒さんから今では40人を超える生徒さんに囲まれてます。町の公民館のギター講座の人達で始まったアンサンブルクラブも10人から20人そして20回目の定演を迎えたのです。

因みに私もクラブ部員ですよ。私は母の介護の傍ら水彩画も描き続け、個展も時々開きました。そのうち水彩画を私に習いたいという人も出てきて6年前から「水彩画教室」を始めましたが、絵を描くよりお喋りに花が咲いて、ストレス解消のサロンみたいになってます。

毎日好きな事しかしてなくて、こんなんでもいいのかしらと思うような日々ですが、「教室」という人が寄ってきてくれる場を作った事で、仲良しの練習させてもらっているのかな? 日々練習有るのみ! ギターも、絵も、仲良しも、ですね。



理想社会の実態、実践の書、誕生物語



職場への行き帰りの途中に鬼柚子の木が二三本植わっている。晩秋の頃になるとそれまで葉っぱの色と変わらなく目立たなかった果実がだんだん黄色く色づいてくる。12月の下旬頃には、小玉のスイカのような実をたわわにつけた真っ黄色な果実が日差しの中に鮮やかに浮かび上がる。そんな頃合いを見て、ここ数年ジャムやママレードなどをつくるのを楽しみにしている知人にと何個かをもぎ取って送っている。

ふと「美果が甘露を湛（た）えて人を待ち、といったフレーズが思い浮かぶ。それにしても「人を待ち、なんて、心憎い表現だ。おのずと自然と人は一体のもので、人は自然から産まれたんだなあ」と納得されてくる。

今、世界は「平和のために戦争し、神に祈って爆弾を恵む、フレーズそのままの悪の裏も表も露骨に輩出する全く方向性のない乱世の谷間に落ち込んでいる。物余りと物不足、難民餓死者が同じ地球上で共存し、宗教対立、民族紛争、小国独立、権力闘争、排他運動など枚挙にいとまがない。そう言えばゴルゴタの丘で十字架につけられたイエス・キリストの言葉が「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」だった。

そんな中で今ここで採り上げたいのは、特講受講の際に手渡された研鑽資料『ヤマギシズム社会の実態 世界革命実践の書』である。先の二つのフレーズもこの書から引用したものだ。

思えば「心ならずも、の連続だった。戦後生活が年と共にきびしくなり、芋と水の生活も続かず自活農業を始めてみた。1町6反歩の稲作と鶏二三百羽を飼う小農にすぎなかった。それがたまたま昭和25年のジェーン台風で、一面倒伏の中で一区画の田だけ見事に立ち揃っているのを農業改良普及員に見えられた。山岸さん自作の田だった。

それからである。心進まぬながら熱心に求められるまま講演などに引き出された。当時は「ナマクラ養鶏、といううたい文句もよかったのか、鶏で儲けようとする人々が続々と集まった。しかし自分の体験からも、また若い頃から考え続けた自分の考えや社会の実情からしても、養鶏普及だけの集まりであれば実に危険で、むしろそれなら初めからやらない方がよかったと気づくときが必ずくる。これは鶏であって鶏でない。鶏も含めた根本的な不可欠の大事なことがあるのではないか。そう思えて仕方なかった。

しかも素人百姓ながら、反復作業が多く体さえ動かしていれば却って思考がまとまった。加えて健康色そのものの稲の葉色・穂波に快感を覚えたり、日没前ヒナが屑米を拾い疲れてその場にちょうど童子が遊び疲れて無心に眠るような姿に癒され元気づけられた。

どうせやるならホンモノを目指したい。

そこで始めたのが「五五会」と名付けられた「夜明かし研鑽会」だった。ときに1954(昭和29)年11月15日、この日は昼間稲刈りをした関係からか山岸さん宅で開かれた。二間をぶっ通した二階の一部屋で、理想社会実現の道などについて夜明かしでとことん語り合った。

ここで興味深いのは、この研鑽会から一週間後に研鑽資料『ヤマギシズム社会の実態 世界革命実践の書』が一気呵成に書き上げられたことだ。各文章の末尾には11/22,11/25,11/27,11/29,11/30と執筆日時が記されている。いったい何があったのだろうか。

そして翌12月の夜明かし会で三十名近い参会者の前で160枚にわたる原稿用紙に書かれた本文の発表があった。主要部分を所々解説を加えながら本人自身が読み上げた。

現代社会はその基盤が腐朽している。だからこのままの肯定に立って、その上でいくらこれを良くしようと努力しても無駄である。そこで見切りを付けて、理想社会の構想を立て、この実現を目指しこれに即する方法を以てせねばならない。心の世界に真に充ち足りたものが無ければ、絶対に真の幸福はあり得ない。またそうした心理的条件を欠いて組織した社会は真の理想社会ではない等々。

山岸さんは囁んで含めるように、理想社会の実態、その社会構成を語り、自分らはここに人間の持つ知能により、人間愛によって温めてする知的革命の意味から一卵革命の運動に至るまでを説くのだった。

一座は寂として声がなかった。突然大阪の前田英雄(後の参画者)さんが「先生、今までこんなに親切に、分かりやすく言って下さったことがあるのですか」と感極まった声を上げた。実に暁の今に及んで一同は分かったのである。

この間どうすれば私の言うことが分かって頂けるのだろうかと問い続けた山岸さんとこの運動の展開を心から願っているみんなの熱い思いが一つになった瞬間だった。

(佐川清和)

3月「ヤマギシズム研鑽学校」開催予定

2週間会員研鑽学校

(特講受講済みの方)

3月2日(土)～16日(土)

会場：美里実蹟地(三重県)

●参加費：65,000円(税込み)

●問合せ・申込み：東京案内所

tel 042-851-9180 fax 042-851-9181

HPの「申込みフォーム」から申し込みが出来ます

春の「子ども楽園村」開催予定

3月26日(火)～29日(金)

ヤマギシズム豊里実蹟地(三重県)

●参加対象：小学生・中学生(申込時の現学年)

●詳しい内容・申込みはHPを参照して下さい。



楽園村

検索

「ヤマギシ会 LINE マガジン」登録募集中

特講や研鑽学校、各種行事や研鑽会などの情報を、現在、LINE マガジンでお知らせしています。希望される方は、QRコードから登録してください。



幸福会ヤマギシ会活動経費への「協力金」お願い

会の活動経費は、心ある人達の持ち寄り協力金(カンパ)で運営されています。

「協力金」振込口座：ゆうちょ銀行

口座番号：00860-8-62321

口座名：幸福会ヤマギシ会本部